

キリリ華やか 和服姿

一休みする「きものde銀座」の参加者。和服を着こなす姿から、年長者の真鍮がにじみ出る



買い物客らでにぎわう週末の銀座に、着物や浴衣で身を包んだ人たちが続々と集まってくる。「きものde銀座」の参加者たちだ。

二十代から七十代までのメンバーが、毎月第一王曜日、お目当ての商品を探したり、お茶を楽しんだりする。和服好きであれば、だれでも無料で参加でき、会前もない。三年前は数人だったメンバーは、今では七、八十人にまで増えた。

自らも和服が大好きという、代表の牧田宏之さん(46)は「洋服を脱いで着物を着ると、普通のおじさんから抜け出せる感じになるのが何よりうれしい」と魅力を語る。

最近、和服が静かなブームだ。ファッション雑誌で和服の特集が頻繁に生まれ、若者向け服飾店に



は着物や浴衣がずらりと並ぶ。今年五月にオープンした「P.O. NIAAPON」(文京区根津)はアンティーク着物の専門店。し

ゃれたデザインの店内には、昭和の初期から二十年代までの約四百点が並ぶ。最近の毎月の売り上げは目標を「割増し一回」といい、同店は「着物の良さは長く着られること。ブームが去っても大事に長く着てもらいたい」と話す。

池袋の西武百貨店では今夏、初めて和服の特設会場を開設した。家族みんなで楽しむようにと、子ども用から大人用、さらにはベット用まで、浴衣をそろえた。

着心地、風情、華やかさを兼ね、和服ならではの魅力が、現代に生きる人たちの心をとらえているようだ。

(写真と文 竹田津 敦史)



身につける小物にも和風のこだわり



しゃれた店構えの文京区根津のアンティーク着物専門店「Ponia-pon」

丸ビルをスタートし、ふだにまいるエ乃出来なハ東

ディールンクルームに入
タクシー運転手に
手が男の手をつかんだとこ
ろ、男はナイフを車内に捨



思い思いの和服スタイルで銀座の街を散策する「きものde銀座」の参加者たち



池袋の西武百貨店では、和服ブームの中、愛くるしいペット用の浴衣も登場

週末の銀座
愛好家集う

トレッキングコースなら、自由に散策できます。同「小玉スイカ」を収穫し、として1個、持ち帰れます。

その後、真岡鉄道の益子駅からS1列車に乗って真岡駅まで移動、真岡観光リス村へ。たくさんの手乗りリスやウサギなどの触れ合

いを楽しんで下さい。昼食付き。添乗員同行。バスガイド付き。8月7、9、10、14、15、16、17、21、23、24日に、渋谷、新宿、有

楽町から出発(コース番号SC2302)。大人5980-6480円。子供5480-5980円。【読売旅行中野営業所 電話03・5342・5491担当・荒木】